

東海大学 観光学部

本学部1年次は湘南キャンパスで教養系科目やその他の基礎科目を幅広く学び、2年次からは代々木キャンパスで専門を深く学修します。都心の地の利を生かして、業界のさまざまな専門家から話を聞くことができます。



■大学生
照井美帆 さん



■先生
松本亮三 先生



■卒業生
伊能沙樹 さん

CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

●プロフィール

東海大学観光学部の特色を教えてください。



■先生

観光学部は2010年に誕生した東海大学の中でも新しい学部です。日本は2006年に「観光立国推進基本法」を制定し、2008年には観光庁を設置して、観光に立脚した国作りを始めました。わが国が掲げるこの方針のもと、日本だけではなく世界の観光をリードする人材の育成を目標として発足したのがこの観光学部です。

東海大学は2006年に全日本空輸株式会社と協力して、航空宇宙学科に航空操縦学専攻を開設しました。その際に、「この協力関係を活用して、文化系学部においても何か新しい取り組みができないか」と考え始めたのが、観光学部誕生のきっかけになり、ANA総合研究所と共に教育プログラムを作っていたのです。少しずつ授業を試行するのではなく、新学部としての発足を視野に入れ、4年分のカリキュラムを最初に全て考えました。その中から東海大学全学部の学生の学びに繋がる授業をチョイスし、2008年から2年間、大学全体の副専攻として観光学に関する授業を開講したのです。どの授業もたくさんの学生が受講し、中でも世界遺産論は大変な人気で、教室に学生が入りきらないほどでした。そ

の成果を受け、2010年に新学部として観光学部がスタートすることになったのです。伊能さんはその第一期生ですね。

■卒業生

観光学部のある大学は他にもありますが、東海大学の観光学部は新しい学部でもあり、カリキュラムがとても幅広いのが特徴的だと感じました。

■先生

東海大学の観光学部の特徴は、間口の広さです。「観光文化」「サービス・マネジメント」「レジャー・レクリエーション」「地域デザイン」という4つのテーマ（科目群）を学修の方向性として設けています。この4つのテーマのいずれかに集中することも、複数選択して学ぶことも可能です。卒業にはいずれかのテーマで卒業論文を書きますが、それぞれのテーマは互に関連しているので、広い視野から卒論を書くことになるでしょう。この4つのテーマを軸に、観光、サービス、まちづくり、経営や経済など、様々な授業が開講されています。自分が興味を持ったテーマに沿って、授業を選んで受講し、より知識を深めて考察していくことになります。間口は広いのですが、どこかに特化していく中で、深化していくという学びができるわけです。

「観光」と聞くと、誰もがまず旅行やサービスといった業界をイメージしますよね。「観光学」にはもちろんその分野もありますが、例えば海外旅行であれば、その土地土地の文化や歴史を知ることによりよい観光プラン立案に繋がります。また、観光は町おこしなどの地域経済の振興に繋がりますし、そのプロモーションには心理学やマーケティングの知識も必要となります。観光業を発展させ、継続させるためには経営の視点も必須です。海外には観光都市として歴史を重ねた街も数多くあります。それら全ての学びを、観光学部で選択できるのです。「観光」は世の中のあらゆることに繋がっているといえます。



私自身も、もともとは文化人類学が専攻でした。考古学にも近く、スペイン人の手が入る前の南米の発掘を手がけていました。その研究を続ける中で、1990年頃、ペルー政府から「観光資源として適切に保全しながら発掘を進めるにはどうすればいいか」というアドバイスを求められ、協力することになったのです。文化人類学と考古学に観光の視点を求められたのです。それ以降は観光の仕事も多く手がけるようになりました。最近ではエコツーリズムやグリーンツーリズムといった言葉も生まれました。これからの観光は、自然との共生、歴史との共生など様々なことを考えなくてはなりません。つまり、非常に幅の広い学びが「観光学」にはあるわけです。

そんな時代のニーズに応えられるよう、東海大学の観光学部も、学生一人ひとりのやりたいこと、目指したい姿に応じた学びができるよう、多様なプログラムが組まれているのです。

その中でも特徴的なプログラムというところのようなものがありますか？

■先生

総合大学である東海大学の長所を活かして海外留学や異文化体験を積極的に推進しています。このプログラムの豊富さは自慢です。

■卒業生

私の在学中とはまたプログラムの内容が違いますね。

■先生

社会や学生のニーズはどんどん変わりますからね。その時々で人気があるもの、世の中に求められているものに合致したプログラム作りを心がけています。内容は常に改善を図っています。

ずっと人気があるものという、アメリカのフロリダにあるテーマパークでのインターンシップでしょうか。そのほか、東海大学が持っている日本全国のキャンパスや海外施設を活用した研修もあります。海外には協定校もたくさんありますから、自分が興味を持った地域で留学や就業体験などをすることができます。留学プログラムでは単位認定が可能なので、休学することなく中長期の留学をすることもできます。

■大学生

東海大学といえば、大学所有の海洋調査研修船「望星丸」があります。その船で5週間、「海外研修航海」として東南アジアや南太平洋の島々に寄港しながら各国の文化に触れる研修は参加する学生が多いですね。私もそうですが、ほとんどの友達が参加していました。

■卒業生

私も参加しました。「海外研修航海」は本当に総合大学である東海大学ならではの、という感じがします。また観光学部の特徴といえば、TOEIC[®]テストの全員受験もありますね。年に2回、全員が学校でTOEIC[®]テストを受験することになっています。英語をちゃんと学ぶ習慣が継続するのはいい取り組みだと思います。大変だったけど…（笑）。

■先生

あとはレジャー・レクリエーション実習が夏期と冬期にありますね。夏はエコツーリズムとして沖縄県の西表島にある東海大学沖縄地域研究センターで、冬はアウトドアレジャーとしてスノーリゾートで実施します。

■卒業生

スノボ、しましたねー。レジャーを通して楽しさだけでなく、歴史や理論、安全や観光業・経営についても学べるので、いろいろな新しい視点に気づくことができました。

■大学生

夏はシーカヤックでジャングルクルーズやトレッキングを体験します。学校の教育活動としてプログラムが組まれているので、なかなか自分では計画できないような経験ができるのも観光学部ならではの。費用も個人旅行に比べると安いですよ。

■先生

だからぜひ在学中にたくさんのプログラムに参加して欲しいと思っています。



お二人が入学をした理由について教えてください

■卒業生

私はもともと航空会社に就職したいと思っていました。それも大学は国際学科などに進もうと調べていたんです。高校3年生の夏に、東海大学が観光学部を新設すると知り、オープンキャンパスに参加しました。そこで聞いた松本先生の話にとっても興味を持ったのです。授業はもちろん、留学や海外研修、インターンシップなどのプログラムが充実していることを知り、「この学部に入りたい」と思いました。それから3回、学校見学に行きました。大学祭にも足を運んで雰囲気を知り、ますます入りたいと思うようになりましたね。

■大学生

私は高校時代の得意分野が地理だったんです。授業で、海外のとある港町が町を観光化することで発展していったという話を聞き「観光ってまちづくりに生かせるんだ」と興味を持ったのがきっかけです。そこから観光やまちづくりが学べる学部を探そうになり、東海大学観光学部を知ることになりました。他大学と比べて実習プログラムが多いのが魅力でした。実際に世界の町を見て学ぶ

ことができるんだと期待がふくらみました。

■卒業生

私は公募制推薦入試で受験したんです。観光学部の1期生ですが、とても受験生が多かったのを覚えてます。英語と小論文を勉強しました。照井さんは？

■大学生

私は一般入試で受験しました。英語と国語が必修で、あと1科目は地理…とっていたんですが選択科目になくて、数学で受験しました。数学が選べてよかったです(笑)。

■先生

先ほど話したように、観光学部の特徴は「間口を広く」なんですよ。観光学には文系や理系の境界はありません。それでいろいろな教科で受験ができるようにしているんです。地理は選べないんですけど…すみません(笑)。

●大学生活について

観光学部の授業について教えてください。

■大学生

最初の1年間は湘南校舎で、2年次からは代々木の校舎で授業を受けることになります。湘南校舎では、一般教養にあたる授業を受けます。他の学部・学科の授業も受講できるので、いろいろな授業にチャレンジして視野を広げることができました。心理学を受講したり、そこで別の学部の友達ができたりします。

2年次からは代々木校舎なので、就職活動などで都内に出ることが多くなる時期はキャンパスの立地がありがたかったですね。

■卒業生

わかります！私は実家が代々木キャンパスの近くなので、通うのが楽になりました。ただ、チアリーディングをしていたので、結局4年間、ずっと湘南校舎に通い続けましたけど(笑)。

■大学生

就活をする上で、大学のサポートにはとても助けられました。リクルートルームではエントリーシートの添削や模擬面接をしてもらえます。

■先生

代々木校舎には観光学部と東海大学の法人本部があるので、教授陣だけじゃなく、事務に携わっているスタッフの方達が、就活に協力してくれるんです。教育メインの方だけでなく、いろいろな業界で活躍している人と出会えるのも観光学部の特徴かも知れませんね。

■卒業生

授業もそうでした。実業家の方が週替わりで講義をしてくださったり、航空会社の元社員や旅行会社の方の講義があったりと、様々な形で観光業界に携わっている方のお話が聞けるのは、とても興味深かったです。私は航空会社への就職を目指していたので、とても役に立ちました。

■先生

観光学部では卒業論文を書かないといけません。実は学部が発足するときに、卒業論文を卒業要件にするかとても迷ったのです。教授達と何度も話し合った結果「自分で考える、それについて調べる。そしてそれを論理的に組み立て、文章にして、人に伝える。この力は社会で必ず必要になる。社会で活躍してもらうためにも、卒業論文を全学生に書かせよう」ということになったのです。二人と



も大変でしたか？

■卒業生

大変でしたけど、とても良い経験ができました。私は「フルサービスキャリアとLCCのおもてなしの違い」を研究テーマに卒業論文を書きました。元CA（キャビンアテンダント）の先生のゼミです。ホスピタリティやおもてなし、メリットやデメリットを知るために、自分自身でいろいろな航空会社の飛行機に乗りました。金額や所要時間、就航路線とサービスを調べ、お客さまの心理について調べたんです。それ自体も楽しかったですし、いまCAの仕事をする上でとても役に立っていますね。

■大学生

私のテーマは「三世代旅行のニーズと問題点」です。高齢化社会になって、旅行の形態も変化しています。大学生が子世代ではなく、孫世代と一緒に家族旅行に出かけるケースも増えています。友人の両親に協力をしてもらい、アンケートを採ってその実態や過去との違いを調べました。履修した「観光心理学」で学んだことも役に立ちました。「人は右回りに行動しやすいので、テーマパークなどではまず右のアトラクションに向かって移動する」といったことを聞き、実際に見に行ったら「本当だ！」と驚いたのを覚えています。座学でただ知識を詰めこむのではなく、私たちの生活に根ざしているお話をたくさん聞けるのは観光学部ならではのと思いました。

学生生活について教えてください。

■大学生

代々木校舎は歩いて渋谷に行けるのがいいですね！アルバイトは東京で、という同級生はたくさんいました。

■卒業生

観光学部は人数も少ないので、みんなの顔と名前が一致するのがいいです。授業はもちろん、就活でも相談しやすいのでずいぶん助けられました。

■大学生

留学やインターンシップ、研修などで共に過ごす時間が長いので、みんな仲が良かったですよ。研修もたくさんあるので、いつも「どれに参加する？」なんて相談していました。他学部と比べると留学に行く学生も多いのではないのでしょうか。

■先生

多いですね。先ほども話したように、単位認定があるので、休学して、卒業年度が伸びることがないのは大きな特徴でしょう。短期・中期・長期と様々な国での留学プログラムが用意されているので、何度も留学に行く学生がいます。

■卒業生

観光学部に入学したら、留学しないともったいないという気がします。



●就職活動、仕事について

就職活動について詳しく教えてください。

■卒業生

私は CA を目指していたので、ダブルスクールで専門学校にも通っていました。やっぱり今も CA を目指す学生さんは多いのですか？

■大学生

私の代は、CA で採用された同級生がとて多かったようです。でも松本先生がおっしゃったように、観光学っていろんなジャンルに派生する学びの分野だと思います。私も志望動機でお話したように、観光業に興味があったんですが、大学で学ぶうちに興味が変わって、損害保険会社に就職したいと思うようになりました。観光って、いかに人を楽しませるかを考えます。保険会社は、事故に遭ってしまった人の「不安をいかに取り除けるか」を考える仕事だと思うんです。その根底は同じだと考えました。「観光学部で学んだことが活かせる」と思ったんです。いつかは事故対応センターなどで働きたいなと思っています。

■先生

観光学部だからといって、全員が観光業や旅行関係に就職するわけではないですね。重ねてになりますが、観光学はあらゆることにつながっています。もちろん、ホテルや旅行代理店といった観光業界に就職する学生も多くいますが、なかにはウエディング業界などのサービス業、金融などに就職をする学生もいます。どこの業界にいても、観光学部で学んだこと、研修やインターンシップで学んだことは活かせると思います。

●5年後に向けて

5年後に皆さんは何をしているでしょうか？

■先生

学部発足からずっと観光学部の仕事をしてきたので、そろそろ自分の研究に力を入れたいですね(笑)。観光学部のことを考えていると、同時に書きたいことや研究したいことの構想がむくむくと湧いてくるのです。それをまとめていきたいです。

一方でやっぱり観光学にまつわることもやりたい。東京オリンピックが開催される 2020 年は日本にとって大きなターニングポイントと言っていい年。そのインバウンドをいかに継続させていくかを考えていきたいです。いま石川県と長野県の観光をお手伝いしています。そこにこの学部の知見を生かしたいです。

あとは東海大学観光学部から日本の観光を振興させる、そんな提案もしていきたいです。

■卒業生

2020 年には世界中から日本へと、とても多くの旅行者が訪れることになります。CA としてよりよいおもてなしができるように、英語以外の外国語も話せるようになって、多くの方に喜ばれるサービスを提供したいです。

■大学生

私にも後輩ができています。そして、お話しがあったように、とても多くの旅行者が日本を訪れ、日本人もいろいろなところへ出かける機会が増えると思います。誰もが安心して旅ができる、生活ができる。それを支えるのが私の仕事だと思っていますので、先輩として後輩を引っ張りながら、会社の中で活躍できてたらいいなと思います。

●高校生へのアドバイス

高校生へのメッセージをお願いします。

■大学生

私は高校生の頃に留学を経験しなかったのが心残りなんです。もっといろいろな国を訪れておきたかったなと思います。やはり現地に行かないとわからないことがたくさんあります。海外だけではなく、日本もそうですが、「わかった気になっているけど、実際は違ってた」ということがたくさんあると思うんです。ぜひ、積極的に世界に飛び出して見識を広めておくのがいいと思います。



■卒業生

私は高校も大学も部活がメインでした。それで、もうちょっと勉強をしておいたらよかったかなと思いますね（笑）。

受験だけじゃなく、大学の勉強って高校の時の授業で習ったことが土台になることが多いんです。高校の時にいろいろな勉強をしておけば、大学でもっとたくさんのが学べたのになと思うことがありました。その時々は大変だと思いますが、がんばって欲しいですね。

それと照井さんが話していたように、留学はぜひ経験して欲しいと思います。早いほどいいと思いますよ。経験が多いほど、その後の糧になることがたくさん身につきます。

あとは、そうですね、TOEIC[®]テストですね。高校からがんばっておけば、あとあとちゃんと得点に繋がります。ぜひがんばってください！

■先生

本当にそうですね。高校生の頃は、基礎を作る時期、全ての土台になってくる学びをするときだと思います。まんべんなく、様々なことに興味を持って学んでおくと、その時その時は大変でも、必ず後になって生きてくる。いろいろなことを学んで、興味を持って、観光学部に入学すれば、より楽しい学びをすることができるはずですよ。

●インタビューに答えていただいた方々●



■先生

松本亮三先生

東海大学観光学部観光学科 教授

島根県立松江南高等学校出身。東京大学理科Ⅱ類→教養学部教養（文化人類学分科）学科卒業。東京大学大学院社会学研究科文化人類学専攻修士課程修了。1977年東京大学教養学部人文科学科助手、1981年東海大学文明研究所講師、1984年同助教授、1986年同文学部助教授、1994年同教授、文学研究科文明研究専攻主任、アメリカ文明学科主任、学長室次長、学長室長、文明研究所長、付属図書館長を歴任し、2010年同観光学部観光学科教授、観光学部部長（2016年3月まで）、2014年文学研究科観光学専攻主任、現在にいたる。



■卒業生

伊能沙樹さん

全日本空輸株式会社勤務（2015年度取材当時）

私立東京高等学校出身。東海大学観光学部観光学科卒業。キャビンアテンダントを目指し、そのための勉強ができると期待して東海大学観光学部に進学。2010年4月に誕生した観光学部1期生。目標を叶え、現在キャビンアテンダントとして、お客さまに快適な旅を楽しんでいただけるサービスを提供。



■大学生

照井美帆さん

東海大学観光学部観光学科4年生（2015年度取材当時）

大阪府立北野高等学校出身。高校の授業で観光がまちづくりに活かせることを知り観光に興味を持つ。実習プログラムが多い、東海大学の観光学部に魅力を感じ進学。